

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
 - 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
 - 3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- ##### 1 基礎学力の充実
- (1) 授業改革を進め、学習に積極的に取り組み、確かな学力を実感できる教育環境を実現する。
 - ア 生徒の、学習への興味・関心を一層喚起し、より理解を深める授業を実施するため、全ての教室のICT活用環境を整備する。
 - ・「平成 29 年度学校経営推進費事業」により機器を整備してICT化への対応を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容の+評価を、65%以上に向上させる。(平成 31 年度には 70%)
 - イ 次期学習指導要領の趣旨をふまえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしたアクティブ・ラーニングを始めとする、生徒の積極性・能動性を引き出す授業方略を実施する。
 - ・教員の授業相互見学の実施(年間 2 回…各自の気づき、参考点等の共有化)
 - ・多様な授業スタイルの共有化(職員研修等、事例発表の実施)
 - ※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価の向上。平成 29 年度は 80%・76%以上。(平成 31 年度は 82%・80%以上)
 - ウ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。平成 29 年度は 50%に向上。(平成 31 年度は 60%)
- ##### 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
- (1) 「総合的な学習の時間」を活用し、3年間を通じた、計画的なキャリア教育を実施する。
 - ア 各学年の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育を主軸とした学習を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係の+評価を、前年度(84%)以上にし、平成 31 年度は維持する。
 - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
 - ア 各進路希望別ゼミの充実を図り、各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
 - ※ 就職決定状況の高水準維持(平成 28 年度内定者 85 名 97%)、進学講習、勉強合宿等学習機会の充実。
 - イ 将来社会で貢献するための「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、「挨拶」の励行を推進し、希望進路の実現につなげる。
- ##### 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
- (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
 - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ※ 部活動参加率 60%以上への向上。平成 31 年度は 60%以上を維持。
 - イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
 - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
 - ア 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
 - ※ 各種地域活動への参加と、学校教育自己診断(生徒)における、社会のルールを学ぶ機会がある評価を、80%以上にする。(平成 31 年度 80%以上を維持)
 - (3) 人権意識の向上を醸成する。
 - ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に人権教育を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会がある評価、いじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる評価を前年度以上にする。(平成 31 年度 80%以上)
- ##### 4 学校運営組織の充実と指導力向上
- (1) 授業研究を積極的に進め、経験の少ない教員の授業力の向上を図る。
 - ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。
 - (2) 職員研修を充実し、教育力の向上を図る。
 - ア 計画的な職員研修の実施
 - ・人権教育、教育相談、安全教育、ICT機器の活用等年間 4 回以上の実施
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目の+評価を毎年 5%向上させる。(平成 31 年度は 55%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>【全般】 保護者アンケートにはいじめの項目について設問を加え実施した。肯定率は昨年度より向上。生徒 88%(昨年度より+2%)、保護者 50%(昨年度より+30%)、教職員 76%(昨年度より+20%)で、全項目の平均は生徒 73.8%、保護者 68.4%、教職員 84.8%とそれぞれにおいて昨年を上回り、</p> | <p>【第 1 回】H29.5.17(水)平成 29 年度学校経営計画及び学校評価について ・就職について、本人の希望に沿った職種への斡旋ができているが、進学の生徒も卒業後何がしたいか、しっかりとした考え方が必要。 ・部活動において、特に人気のある部活動の背中を押すなど、特化して考えるべき。 ・読書離れが盛んに言われているが、課題図書や読書感想文などを課してみてもどうか。 また、校内でコンクールなどを実施するなど、全校あげて取り組むものがあればよい。努</p> |

特に生徒のアンケート項目のうち、2項目以外の全項目で昨年度を上回るという高い評価となった。

「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」86.2%「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」85.9%と、保護者の高い評価を得、今後も家庭と連携を取りながら、さらなる取り組みを進めていく。

【学習指導等】

「学校に行くのが楽しい」76.3%「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」81.6%「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」83.8%といずれも高評価を得ている反面、「授業は分かりやすく楽しい」58.2%と低く、ICT機器が充実していないことや、学校の図書室利用率は昨年度から10%増加したが依然低く、活字離れが影響しているのかも知れない。分かりやすく楽しい授業の実現のため、教職員が研修や相互の授業見学などを通じて、課題の共有化に努めている。また、読書習慣やアルバイトに対する指導を含めた家庭学習の在り方を改善し、学力向上の取り組みを進めていく必要がある。

【進路指導】

「将来の進路や生き方について考える機会がある」88.1%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」85.7%と高評価で、昨年度のポイントを上回っている。『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。

【生徒指導等】

今年度の遅刻回数は、大幅に減った昨年度並みに減少して。12月現在で、平均して年間1人あたりの遅刻回数は約3回となっているが、一部の生徒に遅刻が重なる傾向。しかしながら、学校の基本である授業を大切にしようという姿勢が少しずつだが、授業見学でも感じられる。

「生活規律や学習規律などの生活習慣の確立に力を入れている」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が77~79%、「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」73%。保護者も生徒指導方針に共感し(75%)、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めていることが窺える。

力を積み上げ達成できる行事を実施することで、学校全体が活気づいてよい。

【第2回】H29.10.25(水)授業見学と新入生アンケート結果について

- ・授業の取り組みや、生徒の参加態度が大変良かった。さらに集中して知識としてどれだけ掘り下げて自分のものにできるかが、これから大切である。
- ・一方通行の授業ではなく、生徒が発言できる雰囲気は良かった。思い付きだけの発言もあるが、教員が上手に取り入れて進め、生徒の集中力を切らさないようにしている。プリント学習が中心となっているが、提出しておしまいにならないように。
- ・2,3年前に比べ、校舎内が綺麗になり、授業の工夫も感じられる。成績上位者のレベル向上に期待できるが、生徒間の差が広がらないよう照準の合わせ方が課題。
- ・大学生など身近な大人の体験を知ることにより、学習の喜びに対するモチベーションが向上できると思う。家庭学習などの学習の時間を増やす工夫を。
- ・就職した生徒の短期間での離職は、人間関係の構築やストレスに対する耐性が十分に育っていないことに原因が考えられるが、今の時代、学校でやられることが少なくなっているのも、原因ではないか。部活もアルバイトもしない生徒は心配。
- ・予算のない中で学校外のボランティアの力を借りて、生徒の支援を厚くすることが可能では。大学のPBL事業を活用してもらえれば、学生の経験にもなるし、単位を認定できる制度にもなっている。

【第3回】H30.1.24(水)学校教育自己診断及び3年生進路状況・校則について

- ・学校教育自己診断の回答全般、肯定的な回答が増えている。しかしながら、保護者については生徒・教職員から比べると肯定率は良くない。数字から何を読み取るかにもよるが、保護者の無関心は課題である。
- ・過去3年間で比較しても、保護者の数字もそれほどの変化は見られない。教職員の意識の変化が生徒の肯定的な回答増加につながっているのではないか。
- ・中学校への授業見学を実施して、中学校の教員間で西寝屋川高校のがんばりが話題になる事があった。生徒も高校の教員が中学校に来て頑張っていることを教員から聞き、家庭で話題にするようで、保護者からも頑張っていると評価されている。良い噂が広がるのは歓迎すべきことである。
- ・登校時に声をかけると挨拶を多くの生徒が返すようになった。自転車のマナーも少しずつ良くなってきている。
- ・改革が進んでいるように思うので、今後さらに継続して成果につながることを期待する。
- ・進路指導は良く頑張っている。短期間での離職は高校生に限ったことではない。失敗もあると思うが、一度会社に入ってみることで、合わなければ若いうちに進路変更も可能。
- ・頭髪指導について、地毛が明るく、生まれつきの色を直せと言うのは、明らかに人権侵害と考えられる。しかし、先日の法律の専門家の話しを聞く機会があり、学校のルールの中で、頭髪の色を改善を求めるのは、行き過ぎた指導ではないという事だった。
- ・大学生になって、急に染色する人も多いが、就職活動の際には改めているし、自分で考えて判断し行動している。
- ・生徒手帳に記載されている校則・内規等の内容は、常識的なものばかりで問題ないと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------|---|--|---|--|
| 1 基礎学力の充実 | (1) 確かな学力を実感できる教育環境の実現 ア ICT活用環境の整備 イ 生徒の積極性・能動性を引き出す授業 ウ 読書の促進と図書館整備 | (1) ア・授業において、教師がタブレットPC等を活用して、生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備を進める。 ・ICT活用授業推進チームを作り、授業改革と活動の活性化を図る。 イ・アクティブ・ラーニング等の授業方略の導入するため、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学で多様な授業スタイルを共有する。(年2回実施) ・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ(職員研修等、事例発表)。 ・授業以外の学習時間を調査し、現状を把握するとともに、家庭学習の在り方の改善に向け検討する。 ウ・図書館整備をさらに進め、学習にも活用できる環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。 | ・主な教科でのアクティブ・ラーニング実践授業の実施。学校教育自己診断(生徒)によるICT活用授業のプラス評価を65%以上を維持。(平成28年度は67.3%) ・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの向上。(平成28年度は3.20、3.05) ・家庭学習に関するアンケート調査の実施・分析及び検討会議の開催。(年2回) ・学校教育自己診断における読書状況の改善。図書館利用率を50%目標。(平成28年度は33%) | (1) ア無線LAN環境の整備は教員の校内努力で完了。タブレットPC等のICT活用授業は可能となっているが、台数が少ないうえに、教室据え置き型のプロジェクターの設置ができず、多くの授業での活用は困難。設置・撤去に時間を要しながらも、教員の努力により、生徒のICT活用授業のプラス評価は67%と目標達成。(○) イ全教員の81%が相互授業見学を実施。課題の共有化・授業改善のための職員研修を実施。全校での具体的な取り組みについては、今後の課題。「授業分析」3.25「生徒意識」3.09と昨年度より向上している。(○) ウ図書館利用率は、国語科の指導もあり、昨年度より大幅にアップし、42%ではあるが、目標に到達せず。利用者は固定している現状。(△) |
| 2 たくましく生きる力の育成 | (1) 3年間の計画的なキャリア教育 ア「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育 (2) 進路実現の可能性を拡大なキャリア教育 ア各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現 | (1) ア・「総合的な学習の時間」を計画的に実施し、3年間を通じたキャリア教育のシラバスを確立する。 ・「カタリ場」「ガイダンス」等、外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育を一層充実させる。 (2) ア・「総合的な学習の時間」の中で、進路別ゼミを実施し、希望進路の実現を図る。 ・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。 ・進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。 ・進路決定後の進路別の接続を意識した学習の在り方を検討する。 | ・学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上に向上。(平成27年度は81%) ・学校幹旋就職を始め、進路別希望者全員の希望実現。昨年度以上を目標。(平成28年度は88%) ・進学希望者勉強会に20名以上の参加者を得る。(平成28年度は15名) ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率75%以上。(平成28年度は71%) | (1) ア1・2年次「自分を知る、自分の興味・強味を知る、職業を知る」、3年次では具体的に「進路実現」を目的としたキャリア教育を展開。「カタリ場」の代わりに、「2年生進路Week」として、外部人材登用で寸劇実施。進路関係のプラス評価は87%で向上。(◎) (2) ア進路希望実現は92.2%で、昨年を大きく上回っている。高大連携先での学習会にも参加者は30名と目標を大きく上回った。(◎) 「挨拶」を軸として、「発信力」を高める指導を様々な場面で指導してきた。学校教育自己診断では、昨年度を上回って73%と明らかに向上したが、目標には届かなかった。(△) |
| 3 規範意識と社会性の育成 | (1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2) 地域との連携の中で社会性を育成 ア 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める (3) 人権意識の向上 | (1) ア・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取り組みを積極的に進める。 ・朝のSHRにおいて遅刻防止、健康把握を行う。 ・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 イ・授業・HRのみならず、学校行事の中でも公民教育(主権者教育)を展開する。 (2) ア・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。 (3) ア・人権教育計画に基づき、学校教育全般を通じて人権教育を実施。外部人材を登用して、人権の生徒向け研修を実施。 | ・1年生の部活動加入率で60%以上を維持。(平成28年度は60%) ・全体の遅刻回数をのべ3000回以内とする。(平成28年度は3200回) ・学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を80%以上にする。(平成28年度は75%) ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」に関する肯定率75%以上。(平成28年度は72%) ・人権教育の肯定率75%以上にする。(平成28年度は72%) | (1) ア1・2学期を通じて複数回実施したが、1年生で51%と伸びなかった。アルバイトとの兼ね合いが阻んでいるようだ。(△) 遅刻は3学期で踏ん張れず、最終的に昨年を上回り3473回となったが、固定化しており個別に家庭との連携が必要。(△) イ公民教育は、後期生徒会選挙を活用して実施。「社会のルールを学ぶ」は79%だが、選挙方法についての満足度は高い。(○) (2) ア生徒会が主体となって地域のあいさつ運動や交流行事に参加し、評価は高い。小学校への出前授業では参加生徒が77名と昨年より増え、双方の肯定感100%。(◎) 保護者への情報提供は、76%と目標を達成している。(◎) (3) ア人権研修は生徒各学年3回、教職員3回実施で、うち1回はPTA共催。人権教育肯定率74%だが、PTAとの共催は初の実施。(○) |

府立西寝屋川高等学校

| | | | | |
|------------------------------|--|---|--|--|
| <p>4 学校運営組織の充実と指導力向上</p> | <p>(1) 経験の少ない教員の指導力の向上 ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。 (2) 職員研修を実施し、教育力の向上を図る ア 計画的な職員研修</p> | <p>(1) ア・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。 (2) ア・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。</p> | <p>・学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価を40%とする。(平成 27 年度は 29%) ・学校教育自己診断による相談に関する評価を 60%以上にする。(平成 27 年度は 56%) ・職員研修を計画的に年 4 回以上実施。</p> | <p>(1) ア 職員会議後などを利用するなど、研修の伝達機会を増やし、「研修機会の共有」は 91.3%と大幅に向上。学校外の研修内容を共有するために、積極的な研修の参加を働きかける必要がある。予算的なこともあるが、努力したい。(◎) 相談に関する評価は 62%と向上した。(◎) (2) ア IJKST を組織し、授業改革について一歩踏み出したところ。近隣中学校や先進的な取り組みの学校へ視察に行くなど、授業力向上への意欲向上を図る全体研修を実施した。職員研修は 6 回実施。(◎)</p> |
|------------------------------|--|---|--|--|